

氏名	池田 英治		
学位の種類	博士（ 体育科学 ）		
学位記番号	博甲第 8887 号		
学位授与年月	平成 31年 2月 28日		
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当		
審査研究科	人間総合科学研究科		
学位論文題目	バスケットボール競技におけるコレクティブ・エフィカシー尺度の開発とチーム・パフォーマンス変容過程に関する研究		
主査	筑波大学教授	博士（心理学）	坂入 洋右
副査	筑波大学教授	博士（体育科学）	内山 治樹
副査	筑波大学教授	博士（工学）	高木 英樹
副査	筑波大学教授	博士（工学）	浅井 武

論文の内容の要旨

池田英治氏の博士学位論文は、チーム・パフォーマンスの予測指標として有効な「コレクティブ・エフィカシー」(Collective Efficacy)を手掛かりに、チームを構成する競技者の心理面における尺度を開発し、複雑多様なチーム・パフォーマンスの変容過程の実態を解明することを目的としたものである。その要旨は以下のとおりである。

(要旨)

筆者は、まず序章において、チームが勝利するには、プレイヤー個々人の能力や才能の集積だけでなくチームとしてのパフォーマンスが鍵となるが、集団の形成やそのパフォーマンスを規定する極めて重要な要因の一つであり、構成員同士の信頼関係や共同意識を理解する上で近年その有用性が注目されている「コレクティブ・エフィカシー」(Collective Efficacy : CE)理論を援用した国内外の研究では、CEとの関係性を首肯する上で重要な観点であるパフォーマンス指標に対する認識には研究者毎に相違があり、また、試合場面のパフォーマンスとCEとの有意な関係性は認められつつも、それら指標が現場とその実践で活用されて成果をもたらした例は殆どないことが結果として現場を混乱させていることを明らかにし、従前の研究の限界を示している。そこで、筆者は、真に現場のプレイヤーや指導者が求めるものは、単なる「CEとパフォーマンスの正の関係性」という統計的手法から得られた結果ではなく、パフォーマンスの改善に寄与するための実践というコンテキストの中で活用される信頼性と妥当性を有する指標である、との問題提起を行っている。この問題の解決に向けて、本章ではCE及びそれに関連する先行研究が入念に検討されることで、最終的に、1) 因子分析的手法を用いた尺度の開発、

2) CE とチーム・パフォーマンスとの関係性の再考、3) CE とチーム・パフォーマンスの変容過程の把握、という課題が設定され、それらを検討することの意義と重要性を明らかにしている。

第1章は予備的考察と位置づけられており、ここで筆者は、他の種目と比して最も複雑な戦術的特性を有するバスケットボール競技を対象に、まず、ハーフコート・オフェンス戦術行為の試合場面における具体的な状況に関する項目の抽出を行っている。次に、CE 理論をチーム・パフォーマンスの向上を賦活せしめる方法論的装置として援用することで、単なるパフォーマンスと CE との関係を検証するのではなく、その CE の認知向上の過程とパフォーマンスが向上する過程およびその関係性を検証することの意義の重要性に鑑み、バスケットボール版 CE 尺度 (Collective Efficacy Scale for Half-Court Offense : CES-HCO)を開発している。そして、その尺度をバスケットボール競技における戦術行為の獲得・浸透の評価・診断ツールとして用い、実践への介入を通して検証した結果、CES-HCO によってチーム・パフォーマンスは簡易に把握でき、試合場面でのパフォーマンスの改善に効果があったことを明らかにしている。

第2章では、筆者は第1章で検討した池田・内山 (2012) におけるバスケットボール版 CE 尺度をバージョンアップさせることで、より一般的で汎用性の高い尺度を開発し、その信頼性・妥当性を検証している。探索的因子分析及び検証的因子分析によって、バスケットボール競技における新たな CE 尺度 (Collective Efficacy Scale for Basketball Offense : CESBO、Collective Efficacy Scale for Basketball Defense : CESBD) は、因子内の項目内容こそ異なるものとともに 21 項目から構成され、「戦術」「特性」「調整」の 3 因子構造から成っていることを明らかにしている。尺度の併存的妥当性の検証においては、設定した全ての仮説が概ね支持されており、CESBO、CESBD は集団環境質問紙 (GEQ : 集団凝集性尺度) 及び一般性効力感尺度 (CEQS) と有意な相関関係にあり、「集団に関する変数」を測定できることが概念的に明らかにされている。また、GEQ の中でも、特に「課題」的な凝集性を示す因子である GI-T、ATG-T (T : "Task") との相関係数が他の因子よりも相対的に高く、開発された尺度が理論的にバスケットボールの課題に特化した項目によって構成されていることを実証している。

第3章では、第2章で汎用性が実証された尺度を用いて、まず、パフォーマンス・レベルによる CE の差異について検討している。その結果、調整因子がバスケットボール特有の課題達成場面に関連しにくい因子であることを、他方、戦術及び特性因子においては、先行研究 (Heuze et al., 2006 ; Watson et al., 2001) を首肯する結果が得られ、パフォーマンス・レベルの高い選手の方が、その他の選手 (低、中程度) よりも CE が高いことを明らかにしている。次に、CE と密接に関連するパフォーマンス指標を特定するために、パフォーマンス指標と CE との関係性について、相関分析を用いて網羅的に検討している。その結果、「シュートに関する項目」「勝敗に関する項目」「客観的で精度の高い指標」 (Bray and Whaley, 2001) が、バスケットボール版 CE 尺度 (CESBO) との強い関係性を表すパフォーマンス指標として導出され、その中でも「客観的で精度の高い指標」としての“PROD”が、CE と特に関係性を持つ指標であると述べている。以上までの検証を通して、著者は、これまで「ゲーム」を行わなければ確認することができなかったチーム・パフォーマンスを、CE によって間接的に把握すること (予測すること) が可能であり、同時に、集団の球技スポーツ (バスケットボール) におけるパフォーマンスの変容過程を詳細に捉えるためにも、本研究で開発された CE 尺度が有用であることが実証されたと述べている。

第4章では、CE とその関連概念である集団凝集性 (CO)、チーム・パフォーマンスとの関係性及びその変容過程について検討している。まず、級内相関係数 (Intraclass Correlation Coefficient) を用いて CE と CO 尺度における得点の変動が、集団による影響 (between level effect) を受けているか否かを検証した結果、CO 尺度における ATG-T を除く全ての因子で有意な結果が認められ、同集団に所属する者たちの CE (CESBO) 及び CO 得点には集団内類似性が存在することを明らかにしている。次に、対応のある一元配置分散分析を用いて、CE が経時的に変化する一方で、CO にはそのような変化が認められないことを明らかにしている。さらに、Coherence (関連度関数) を用いて、CE と CO、及びチーム・パフォーマンス指標 (PROD) の変動の一致度について検証した結果、チーム・パフォーマンスに対する認知に伴って CE は変動し、特に、パフォーマンス・レベルの高いチームにおいては、パフォーマンスを認知することによる CE の変動が相対的に強く、他方で、CO に関しては、そのような関係性が弱いことを明らかにしている。一方で、チーム・パフォーマンスの測定前 (公式戦前) に質問紙調査を行うというデザインによって得られた 3 変数の変動について検証し、CE が予測因となってチーム・パフォーマンスの程度を説明できることも実証している。

結章では、以上の種々の検討を総合し、筆者は、比較的パフォーマンス・レベルの高い集団では、チ

ーム・パフォーマンスの実態を捉え、その向上を促す過程において、CO よりも CE に着目することが重要であり、また、CE 尺度を用いた現実的で簡便な介入方法の効果について事例的に検討を試みた結果、より高い成績を残したチームにおける指導者の半構造化面接の結果から、課題に特化した CE 尺度 (CESBO) はバスケットボール競技の戦術に関するチーム状態を評価するチェックリストとして有効であると結論づけている。

審査の結果の要旨

(批評)

本研究は、世界で初めて開発されたバスケットボール競技に固有の CE 尺度を通じて集団レベルの状態や内的な変化の把握を可能にし、また、CE を高めるための実践的な方法論を提示し得た点で特筆すべき内容となっている。それは、1) これまでのコーチング場面においてコーチの主観によって判断されていたチームの状態が、競技者の主観を通して客観的妥当性が保たれて比較的容易に把握できる、2) 本研究で開発された尺度を評価・診断ツールとして用いた実践法は、チーム・パフォーマンスを向上させるための新たな取り組みとして有効である、3) 理論 (エビデンス) をベースとしたコーチングの新たな方法論が提示された、という3点から特徴づけられ得る。本研究で示された、高い信頼性・妥当性を有し、チーム・パフォーマンスの実態を解明し得る3因子21項目から成る世界初のバスケットボール版CE尺度 (CESBO、CESBD) は、今後、コーチングへの多大な貢献が期待でき、また、本研究の成果は、CE 増強のための理論ベースでの実践的な取り組みと実践とを架橋するばかりか、チーム・パフォーマンスの向上にとって有益で有用な指針と成り得ることからもその意義は大きく、博士論文として優れた内容を有している。

平成31年1月30日、学位論文審査委員会において、審査委員全員出席のもと論文について説明を求め、関連事項について質疑応答を行い、最終試験を行った。その結果、審査委員全員が合格と判定した。

よって、著者は博士 (体育科学) の学位を受けるのに十分な資格を有するものと認める。